

旧砂原村と旧小曾川村の鎮守から推定した両村の来歴

2022年10月18日 秦野 秀明

改訂 2025年04月30日 秦野 秀明

1・砂原村の「来歴」について

①「近世の宿、町、村、新田名」

すなはら
砂原村(注1)

②「近世の郡名・領名」

埼玉郡 越ヶ谷領(注1)

③「近世の管轄の沿革」

御料所 『正保(武蔵)国絵図』(注3) 『正保(武蔵)田園簿』(注4)

→ 土屋但馬守領 『寛文印知集』(注5)

→ 堀田豊前守領 『寛政重修諸家譜』(注6)及び(注7)

→ 米倉丹後守領 『寛政重修諸家譜』(注6)及び(注8)

④「検地の年度」

寛永六年(1629)・寛文十三年(1673)・延宝元年(1673)(注1)

⑤「近世の小名」

東組、前原組(注1)

⑥「近代の字地」

よこねがた 横根方 ぬま 柳田 かた 沼の方 沼 六反田 前原 東(注2)

注(1)～(8)

出典：

(1) 文政十三年(1830)成立

(1963) 『新編武蔵風土記稿』 [第三期] 第十巻、雄山閣

(2) 明治十五年(1882)成立

(1954) 『武蔵国郡村誌』 第十一巻、埼玉県立図書館

(3) 注(1)「正保年中改定図」

(4) 慶安二～三年(1649～50)成立 ※林 巖氏の見解

(1977) 『武蔵(正保)田園簿』、近藤出版社

(5) 『寛文印知集』 『続々群書類従 第九 地理部』 続群書類従完成会

(6)(1983)『寛政重修諸家譜 第二』続群書類従完成会

(7)元禄十四年(1701)十二月「砂原村普請場割合願」

(「砂原村松沢家文書」市史編さん室蔵)

(1973)『越谷市史 三 史料一』越谷市 p.511

(8)弘化二年(1845)十二月「米倉氏系譜」

(1972)『神奈川県史 資料編五 近世』神奈川県 p.942

2・砂原村の「鎮守」について

埼玉県神社庁編 (1998)(注9)では、

「『明細帳』によれば、その創建は天正元年(1573)九月二十八日のことであるという」

と記載され、さらに、

「『風土記稿』砂原村の項には、当社は見えず、隣村の小曾川村の項に「久伊豆社 当社及び砂原村の鎮守となす、古へ爰は砂原村の地内なりと云」と載り、化政期(一八〇四-三〇)には、隣の小曾川村にある久伊豆社を砂原村と小曾川村の鎮守として崇めていたことがわかる。しかし、この時期に当社が存在しなかったことは考え難く、何かの事情で記載を漏らしたものであろう」と記載されている。

また

「社殿の鰐口には「奉納砂原久伊豆大明神御広前、于に天保十二辛丑年(1841)十二月吉日」

「願主右村名主松沢平志郎」「砂原村東組氏子中家数七軒」などが見え、当時は東組が氏子であった」

と記載され、さらに、

「大正二年に字前原の稻荷神社を合祀するまでは、砂原の中でも、前原は稻荷社、東組は久伊豆神社(当社)の氏子という具合に、鎮守の社を別にしていた」と記載されている。

※(下線及び赤字は筆者が加筆)

(注9)

出典：

埼玉県神社庁編 (1998) 『埼玉の神社 北足立 児玉 南埼玉』

埼玉県神社庁 p.1212

「53 久伊豆神社-越谷市砂原一四五五(砂原字東)」

3・中世に砂原村が存在した可能性について

黒田 基樹(2013)(注10)では、

風間出羽守の活動を伝える史料として、以下の「**6点**」を記載している。

①元亀三年(1572)二月十日付 北条家朱印状写『戦国遺文 北条氏編』

②元亀四年(1572)十二月十日付 北条家裁許朱印状写『戦国遺文 北条氏編』

③天正五年(1577)二月十日付 北条家裁許朱印状写『戦国遺文 北条氏編』

④(天正十年)(1582)九月十三日付 北条氏政書状『戦国遺文 北条氏編』

⑤(年未詳)六月二十六日付 北条氏規判物『戦国遺文 北条氏編』

⑥(年月日未詳) 北条氏政書状写『戦国遺文 北条氏編』

史料②

岩付領砂原村(越谷市)が風間の在宿によって迷惑していることを北条氏によって訴訟してきたのに対し、今後は風間を配置しないことを認めたもの。

史料③

砂原村の在郷被官岩付衆内田孫四郎について、軍役二騎を務めるべきところ、一騎しか務めていないと、風間の同心渡辺新三が北条氏に訴訟したことに対し、軍役規定の帳簿である「御前帳」にも、一騎のみであることから、風間の訴訟を却下したものである。

※(下線及び赤字は筆者が加筆)

(注10)

出典：

黒田 基樹(2013)「コラム 風間出羽守のこと」

『北条氏年表 宗瑞 氏綱 氏康 氏政 氏直』高志書院 p.p136-138

仮説「砂原村の変遷」①

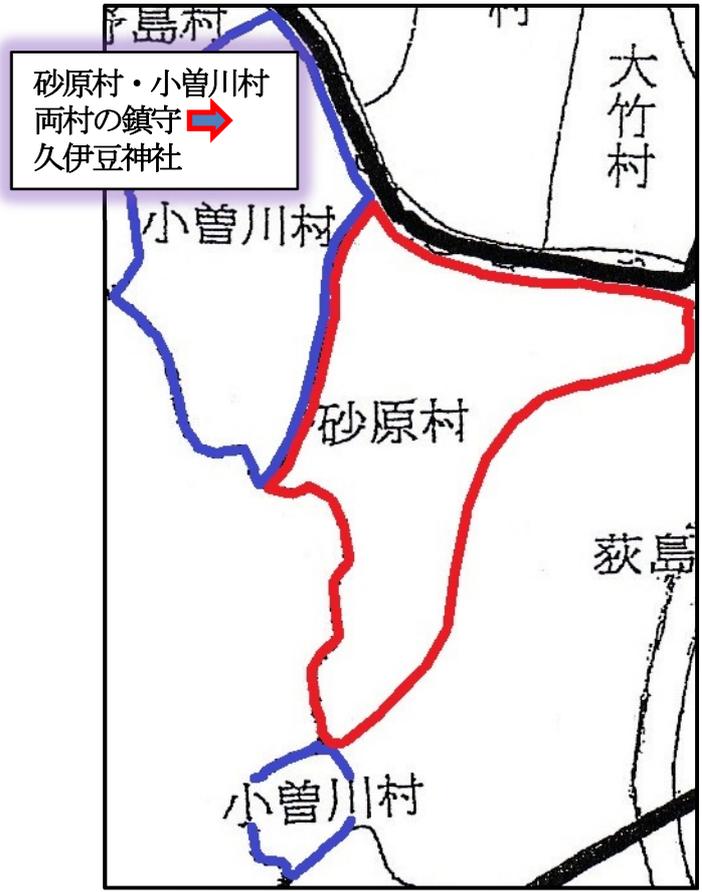
○砂原村

○鎮守は
小曾川久伊豆神社

仮説「砂原村の変遷」②

○砂原村から
小曾川村が分村

○**両村**の鎮守は
小曾川久伊豆神社



↑ 仮説「砂原村の変遷」

「加藤 幸一氏作成の図」に「砂原村の変遷」その他を加筆して部分引用



○久伊豆社 **当村(小曾川村)及砂原村の鎮守**とす、いにしえここ古へ爰は**砂原村の地内**いうなりと云

出典：

『新編武蔵風土記稿』